

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200120
法人名	KEITOKU GROUP株式会社
事業所名	グループホーム かいもん
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町1330番地1 (電話) 0993-27-2110
自己評価作成日	令和4年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ご本人様の残存能力を活かした作業を、本人の役割として参加して頂く事を基本としており、家庭的な雰囲気を損なわないような環境づくりを心掛けている。
- ・基本理念唱和にて1日の生活が始まり、利用者様が孤立する事がないよう常にスタッフが声かけをしており、利用者様が自由に過ごして頂けるよう努めている。
- ・コロナ禍でも、利用者様とご家族の関係を大切にしており、制限はあるが面会や電話連絡にて喜びを少しでも感じて頂けるよう両者の橋渡しをして安心して頂けている。
- ・少しでも、利用者様やご家族様のお役に立てたらという思いで、スタッフ一同、試行錯誤を重ねながら支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・コロナ禍で、利用者と家族の関係を大切に考え、職員の意見で「かいもん便り」として、日常生活の写真を多く送ることを考え、台所で職員と一緒に楽しく料理を作っている場面、レクリエーションの風景、外の散歩など、いろいろな場面の笑顔の写真を送って家族から喜ばれている。
- ・窓越しでの面会を予約制にして、希望日や時間など聴き取りを行い、面会リストを作成中である。
- ・マニュアルを基に年2回の消防訓練を実施している。自主訓練は夜間の設定にしたり、あらゆることを想定し、対策を話し合って記録に残している。出火場所により2ヶ所の避難経路を設定している。利用者に火災ベルが鳴ることや訓練であることを説明し、安全を確認しながら避難誘導している。避難経路も確認し、近隣の関連施設とも連携を取っている。
- ・食事時の嚥下事故などがおこらないように食事の時は職員が利用者の間に入り一緒に食べるように心がけている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い作り上げた理念を、毎朝、唱和し実践につなげている。	理念は、玄関やホールに掲示し、パンフレットにも掲載している。毎日の唱和を継続し、一日の始まりの意識づけにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過なので、地域行事への参加は中止している状態であるが、少しずつでも以前の様に行事へ参加できるよう促していきたい。	自治会に入り回覧板で地域の行事など情報を把握している。行事参加等は自粛している。再開したら徐々に地域の一員として参加していく計画である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	面会に来られた家族や、電話連絡対応時において報告を実施しているが、地域の人々に向けてとなるとできてはいないのが現状である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、書面会議にて開催。その都度、意見や要望を聞いており、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回定期的に開催している。今はコロナ禍で書面での運営推進会議を行っている。事業所の活動状況や利用者の状況、外部調査結果などを報告し意見をもらい必要に応じサービス向上に活かしている。必要時は、次回の運営推進会議で追加報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ市町村担当者、区長に参加して頂き、意見交換を行い、密に連携を図れるよう協力体制を築いている。	行政とは電話やメール・FAX等で連携している。運営推進会議など行政と事前の打ち合わせをして情報交換している。必要に応じ窓口に行って相談している。研修は、オンラインで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会や社内研修にて学ぶ機会を設け、また実践に活かすよう努めている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回定期的に実施している。毎月輪番制で勉強会を実施し、自己研鑽に努めている。車いすからの立ち上がりや転倒など危険に繋がるケース等を安全安心に生活できるケアのあり方や拘束しない取り組みを話し合っている。玄関の施錠は昼間はしていない。外出希望の利用者は見守りや中庭の散歩で気分転換を図っている。玄関のチャイムの音で対応する場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会や社内研修にて虐待について学ぶ機会を設け、また実践に活かすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会にて学ぶ機会を設け、スタッフの理解をが深まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、利用契約、同意書等、書面に基づき十分な説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設に来られた家族には、その都度、情報報告を行い、遠方の家族には電話やメール、オンライン面会にて報告し、意見や要望をお聞きしている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を聞くように努めている。家族からも電話や面会・メール・オンライン等で、意見を取り入れている。面会の要望が多いので、希望日や時間など聴き取りを行い、面会リストを作成中である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議にて職員の意見や要望を聞く機会を設け、ケアや業務に反映されている。	ホーム長は、職員会議に毎回参加し日頃から職員と気軽に話せる雰囲気努め、職員の意見を反映している。勤務に関して希望がある時はその都度調整している。何でもすぐ相談できる環境にあり働きやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者も共に働いている事もあり、職員の努力・実績・勤務状況を直接把握し対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会を実施しており、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、GH連絡協議会でのみ同業者と交流する機会があり、そこで知れた情報を、各職員に共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と話し合う機会を設け、そこで不安や要望を聞き、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安や要望等思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が困難に思っていた事や要望に対して、まずできるサービスを伝え、出来る限り支援していく方針を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや、食後のテーブル上拭き、洗濯物畳み等、小さい事でも出来ることはお願いしたり、職員と一緒にいるなどして、支え合うもの同士の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来設された際や電話にて、施設での生活状況や、問題点など報告・相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し・オンライン面会や電話にて、馴染みの人と連絡がとれるよう支援している。	家族や知り合いの面会があり、窓越し面会を依頼したり、遠方の家族は特別許可で面会を許可するなどケースバイケースで対応している。2～3ヶ月毎に馴染みの訪問美容師にて音楽をかけながらカットを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお話したり、職員が話しかけ孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手に合わせ、連絡・相談があれば支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中から、本人の思いやご家族の意向を聞いて、スタッフで話し合い、本人の思い・要望を最優先できるように努めている。	利用者がゆっくりとフロアで過ごしている時や入浴中等にタイミングを見計らって話しかけ、把握した情報は、申し送りファイルに記載しケア会議で話し合っている。家族とも相談して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から思いを語る機会を作り、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、話し合いを行ない、状況変化があった場合は、すぐに見直しを実施している。	本人や家族の思いを聞き、医師から意見をもらっている。大幅な変更があれば計画の見直しをしている。職員への周知は会議や口答で説明し記録している。モニタリングは3ヶ月毎に、状況の変化時は、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに記録ファイルを作成している。情報の共有はケア会議や申し送りファイルを使用し状況把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医としたり、夜間時に対応できる医療機関を勧めたりと、柔軟に対応している。	本人及び家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。受診は原則家族が同行している。往診は、事業所と看護師が事前に情報交換し、医師に報告している。誤薬がないように2人体制で確認している。24時間医療連携体制で安心できる支援ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎回、往診前に看護師が来られ、事前に相談できるためスムーズに対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の指示に従い、協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、必要になった場合は主治医・家族とカンファレンスを開催し対応していく。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意を得ている。早い段階から家族と連携を取り家族の気持ちを汲み入れて理解も求めながら進めている。終末期対応は担当医の指示でぎりぎりまで対応している。必要な場合は、医療機関や施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。勉強会にて緊急時対応についても学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施し、通報設備等を使用して、日中・夜間想定訓練を実施している。	マニュアルを基に年2回の消防訓練を実施している。自主訓練は夜間の設定にしたり、あらゆることを想定し、対策を話し合って記録に残している。出火場所により2ヶ所の避難経路を設定している。利用者に火災ベルが鳴ることや訓練であることを説明し、安全を確認しながら避難誘導している。避難経路も確認をしている。備蓄は米・水・調味料・インスタント食品・レトルト食品等を備えている。夜間帯の住民協力は、今後の課題である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を設けている。	接遇・人権擁護・個人情報保護の勉強会を実施している。介護支援時のプライバシー保護に努め、利用者の気持ちを損ねないように注意している。職員会議などでも繰り返し確認している。言葉かけにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を待つケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に美容師に二カ月に1回の頻度で訪問して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな料理や旬の食材をメニューに取り入れ食事の際は、間に職員が入り一緒に食事をとっている。	食事前に献立の紹介と嚥下体操やエクササイズをしている。食べたい物など聞いて職員が交代で季節の食材を使い調理している。行事食や誕生日食を準備している。テレビを消して静かな中での食事の状況である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、必要な栄養・水分が把握できるようにしている。特に水分を摂られない方には、ポカ리를半ゼリー状にし水分摂取してもらうよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には一部介助及び全介助にて仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄を行なえるよう、トイレ誘導や声かけを実施している。	排泄パターンを把握し、個々に沿ったトイレ排泄を目指している。タイミングを見計らって周りに気付かれないように声かけしてトイレ誘導している。排泄の声掛けで尿失禁の失敗は少ない。夜間はトイレ排泄・ポータブルトイレ使用・パット交換と利用者に沿った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳をお出しし、食物繊維が多いお野菜を料理に取り入れ提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には入浴日は決めているが、本人の体調や希望によって時間や曜日をずらすなどして柔軟に対応してる。	週に3回午前中に入浴支援をしている。体調に合わせて時間調整している。脱衣場で利用者同士が接触しないようにしている。入浴拒否の場合は、時間や職員を変えてうまく対応している。無理強いはしないようにしている。温度管理や転倒防止など安全に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々で違うため、習慣に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットで薬剤情報を確認できるようにし、内服薬に変更があった場合は、往診ノート、申し送りファイル、介護記録表に記入し全体周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、お盆・食器拭き・洗濯物畳み等、出来る事はして頂くようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策の為、外出は行なわなかったが、通院に関してはご家族に協力依頼し、出来るだけ一人ひとりの希望に沿った外出支援を行なっている。	中庭の散策で外気浴や日光浴を行い、花見も楽しみ、気分転換している。定期的な医療機関受診時は回り道をして車の中から外の風景を眺めて楽しんでいる。家族の協力もある。年間計画で外出計画があるがコロナ禍で現在は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい人が多く、ご家族管理がほとんどである。必要に応じて要望があれば購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には必要に応じて電話ができるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目の前には壮大な開聞岳があり、開聞岳を眺め歌謡曲を聞きながらヘアカット実施したりと利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	フロアは、天窗があり明るく日差しも良く入る。利用者の顔が見える位置にキッチンがあり、良いにおいがする。エアコン、空気清浄機があり、定期的に換気を行い感染予防の対策をしている。利用者は、テレビ・音楽・作品作り等、楽しく過ごしている。職員と利用者で作った季節を感じさせる作品も飾られている。日中は殆どの利用者がフロアで自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ち込んで頂いたり、安全に過ごせるよう家具の配置を考えたりしている。	居室は家で使っていた小さなダンス・テレビ・家族の写真・毛布・時計・手作りカレンダー・位牌等の物を置き、安心できる落ち着いた部屋になっている。季節の衣替えはダンスの中も利用者と話し合っ入れ替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、洗濯物畳み等の家事は室内でも出来るように環境整備している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない